

使用テキスト

配本年度

『特別支援教育の基礎・基本』新訂版

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジース教育新社)

2015 年度～

科目概要

聴覚・聴覚障害に関する基本的な心理・生理・病理を理解し、聴覚障害から派生する言語発達上の課題に対応する方法を理解する。また、補聴器や人工内耳などの医療等技術の進歩を理解し、教育場面における活用に際しての配慮事項を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 聴覚に関連する聴覚器官の基本的な生理機能の知識が身に付く。
2. 学校教育と関係の深い聴覚障害に関する諸検査・アセスメントの知識が身に付く。
3. 聴覚障害があることによる言語発達や日本語習得の課題を理解する。
4. 補聴器や人工内耳の基本的な機能の知識が身に付く。

■ 科目の学習要点事項

1. 聴覚障害とは
2. 聴覚検査法
3. 聞こえとコミュニケーションの発達
4. 補聴器と人工内耳の基礎知識

参考文献

- ① 『聴覚障害教育の手引―聴覚を活用する指導』文部省(海文堂出版)
- ② 『難聴児童生徒へのきこえの支援―補聴器・人工内耳を使っている児童生徒のために―』財団法人日本学校保健会(電子図書館で Web 公開されている)
- ③ 『聴覚障害の心理』中野善達・吉野公喜(田研出版)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を的確に把握し、レポート課題の関係箇所の記述を自己の言葉で整理して説明ができており、なおかつレポート用紙の約 8 割程度以上を使用して、基本事項のまとめができていれば、合格とする。

■ 科目終了試験評価

聴覚障害児への教育は、聞こえの状態の把握、聴覚障害に起因する言語発達への影響への対応が重要となる。医療と福祉と教育が連携しながら、聴覚に障害がある子どもの教育が行われているわけである。ここでは、このことに関係する心理・生理・病理に関する事項が理解できていれば合格(60 点以上)とする。